

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700091		
法人名	株式会社めいと我孫子布佐		
事業所名	めいとケアステーションこほく		
所在地	千葉県我孫子市中峠2964-1		
自己評価作成日	令和3年9月16日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和3年11月16日	(訪問評価)	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅などでの自立した生活が困難になってしまったご利用者様に対して、家庭的な雰囲気の中で日常生活や季節行事、アクティビティ等を行いながら楽しく安心して生活が送れるように支援をしている。また、お掃除のお手伝いや洗濯物の片付けのお手伝いなど皆さんに役割なども持っていただきながら過ごして頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東葛地区を中心に社会福祉施設を多数展開するめいとケアグループの運営する2ユニットのグループホームである。小規模多機能型居宅介護も併設されている。毎日、昼食と夕食を近くの同法人施設に取りに行く際、ユニットごとに利用者が同乗して出かけており、楽しみとなっている。ホームの特徴として、室内の広いスペースを活用した活動が挙げられる。コロナ禍で制約が多い中、季節感あふれる行事の他、カラオケ、体操、脳体操、映画鑑賞などを連日実施して、利用者が出来るだけストレスをためないように支援している。自由に面会出来ない今、LINEを活用して入居者の日常を録画した動画の配信は家族からも好評である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に心得の掲示がされており、申し送り時に唱和をしている。	5項目からなる企業理念が新たに制定された。また、職員の行動指針である「心得(5訓)」は、事務所前に掲示し、申し送りで唱和し周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの影響により、触れ合える機会が持てない状況である。	コロナ禍で、地元の行事は、すべて中止となっている。近くの公園などへの散歩の際、地元の方との挨拶を交わしている。その際は、マスク着用には留意している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の看板を設置したりして地域の方が訪問しやすい様務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在新型コロナウイルスの影響により、書面のみでのやり取りとなっている。	コロナ禍で、運営推進会議は中止している。利用者・職員数、活動内容、ヒヤリハット集計などをまとめた報告書を作成している。報告書は、地域包括へ提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な施設の状況や入居者様の情報などでの連絡を取ったりしている。	我孫子市の「高齢者支援課」と「社会福祉課」が窓口となっている。特に、生活保護受給者が複数名入所中で、社会福祉課との連絡機会が多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適宜、身体拘束虐待についてのカンファレンスなど行い、共通の意識を持って支援に取り組んでもらっている。	本年8月に第1回身体拘束適正化委員会を開催した。全職員を対象とし、拘束廃止、虐待防止、倫理についての内部研修を実施した。議事録も作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修などを行い職員の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などを活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前にご家族様にご理解が得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご入居様の意見や要望の聞き取りを行ったり、必要ご連絡などでの相談や状況説明など行っている。	家族の訪問時の聴取に加え、ケアマネによる「ケアプランの見直し時や病院受診結果など家族への連絡の際にも意見を聞くようにしている。また、電話に加え、LINEも活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングなどで意見交換を行い、運営に努めている。	コロナ禍で、全体会議の開催は中止となり、毎日13:45からの申し送りが、唯一の会議の場となっている。話し合われた内容は、連絡ノートに書き留め、その後の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与、技能手当など含め職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや施設内での研修などを活用してケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響などで、交流をしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご見学や面談などを行い、安心してご入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前のご見学や面談などを行い、不安や心配が無くご入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に際して、必要な支援について聞き取りなどを行い良いケアができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の様子をスタッフが共有して他利用者々と穏やかに生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、必要ご協力をして頂けるよう日頃より必要な状態報告などを行い情報共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響などで、交流を控えている	利用者は近所に住んでいた方達なので、大きな桜の木がある方の家に家族の許可を得て皆で花見に出かける等、コロナ禍の中でも出来る支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の性格などをスタッフが共有で把握し、食事の席を考慮したり会話が出来るよう考えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、何かあれば連絡、相談が出来るよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に添えるよう支援している。	利用開始時に家族や居宅ケアマネージャーから本人の意向を聞いている。子供の頃に住んでいた場所をグーグルマップで見え思い出を話すきっかけ作りをしたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までご自宅で使われていたもの等をお持ちいただき、少しでもご自宅の様に生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や身体状態などをケース記録に残したりして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向などをもとに、日々の様子を含め作成している。	毎日、申し送り時に2ユニット合同で各利用者の状態の変化や必要な事を話しあっている。半年毎に短期目標のモニタリングと評価をきちんと丁寧に行い、プランを更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残して情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて臨機応変な対応もできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関との連携が図れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様とドクターとで話し合いを行って頂き、かかりつけとしているドクターの受診や訪問診療を行って頂いている。	在宅時の医師を継続して各利用者の主治医にしており、それぞれの医師が往診に来ている。特にかかりつけ医がない場合は平和台病院の訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に報告、連絡、相談を行い協力支援体制が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクター、ナース、ワーカーと情報共有を行い協力支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者様の状態により、ご家族、ドクターと話し合いご希望に添える対応が出来るよう支援している	主治医の意見を元にそれぞれの方の症状や状態に合わせて家族と話し合っ対応している。看取りの研修を現在は実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や応急初期対応の訓練など定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練、避難訓練を行い緊急時に備えている	コロナ感染の緊急事態宣言が解除された後に消防署による消火訓練と避難訓練を行った。3日間の食品・備品を備蓄している。	利用者は近くに住んでいた方も多いため、コロナ禍が落ち着けば、近隣住民との協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけや対応を心掛けプライバシーの配慮に努めている。	排泄時にトイレのドアを閉めることに気を付けている。モーニングケア時や入浴時には特に利用者の気持ちを尊重したケアを行うよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に洋服を選んでいただいたり、自己決定をして頂き支援出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操など決まっている所もあるが、その他はご本人の意思で過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問理美容があり支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆で一緒に召し上がり、食器の片付けなども皆さんで手伝って行っている。	近くの同法人施設の厨房で調理した食事を、職員と利用者で取りに行く事が楽しみになっている。各利用者の食事時の注意点や必要な事が「個別ケア」一覧表にまとめられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量などを記録に残し、食事形態にも工夫をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の自立を促しながら、必要なところは声掛けや一部介助などを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで行えるよう自立支援を促しながら、必要などころは介助して支援している	トイレでの排泄を継続する為、車椅子→椅子→車椅子への移乗を行う生活リハビリ支援を実施している。バイタルサイン、内服薬、排泄時間や回数、その他の活動を記入する月毎の一覧表が活用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターと連携しながら、必要時内服薬の処方などして頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思や要望の確認を行い、ご利用者のその日の状態、状況に合わせてご利用して頂いている。	安全で利用者がリラックスできる時間となる入浴を心掛けつつ支援している。浴槽に安全に入れる高さのシャワーキャリーが設置されており、同性介助入浴を基本にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事などの時間は決まっているが、その他の時間についてはご利用者様のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で管理させていただいており、個人ファイルで確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や食器拭きなどできる方には役割を持たせたりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出の機会がない状態である。	毎日、食事を職員と各ユニット毎に利用者がリフト車に乗り、同法人施設に取りに行くことが日課になっており、遠回りしてドライブを楽しんでいる。桜や花を見に近くの家に出かけることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が認知症のため、ご家族様や身元引受人の方に管理をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご希望があった時やご家族様からご連絡があった時には話をして頂いたりもしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングでは食事以外にテレビやソファなども置いてあり、ご自由に過ごして頂けるような居場所作りをしている。	各ユニット毎に食事をするテーブルとTVを見たりくつろげるソファコーナーがある。小規模多機能の広いリビングにユニット利用者間に仕切りをして皆が集まり、運動会の練習で盛り上がる様子を見ることができた。季節ごとの飾りが壁に飾られ居心地の良い場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置いてそれぞれにリラックスが出来るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れている物や家具類なども持ってきていただき安心して過ごして頂けるようにしている。	動線に配慮してベッドや家具を設置し安全を確保している。本人が落ち着いて居こちよく過ごせるよう飾りつけ等をし、定期的に清掃を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限りご自分でできる事が行えるよう自立を促し支援をしている。また、手すりなどの設置をして安全に配慮もしている。		